

住民の不安募る 市長とも懇談 風力発電、Xガソラーを調査 たけだ、島津氏 三重・亀山、伊賀市

たけだ良介参院議員と島津幸広前衆院議員は9、10日、三重県亀山市の風力発電と伊賀市の太陽光発電の計画地の現地調査を行いました。亀山市の櫻井義之市長、伊賀市の岡本栄市長とも懇談、住民から話を聞きました。

亀山市の服部孝規、福沢美由紀両市議、伊賀市の百上真奈市議と「草の根運動いが」の宮崎栄樹市議が同行しました。

亀山市の風力発電は、伊賀市、津市にまたがり、最大40



基、12万陸の事業です。計画地に隣接する同市加太(かぶと)地域の住民は、「加太の自然を守る会」を結成、中止を求める署名3492人分を亀山市長に、4713人分を三重県知事に提出しています。

櫻井市長は「計画地は鉦区禁止区域、環境林の整備地域であり、土砂災害の心配のある地域なので問題がある」と思っている。再生可能エネルギーの重要性は否定しないが、自然

伊賀市の太陽光発電は、隣の京都府南山城村にまたがる80鈔(三重県側は7鈔)で37・5メガワットの事業です。

住民との懇談会では南山城村からも6人が参加。「貴重な動植物のいる場所」砂防指定地で新たな災害を引き起こす可能性がある」などの不安が出されました。

酷暑で命にかかわる 学校教室のエアコン設置 文科省に要請 党愛知県委 本村議員

記録的な猛暑が続き、愛知県豊田市で先月17日、小学1年生の児童が熱射病で死亡する事故が起きる中で、党愛知県委員会は10日、「児童・生徒の命を守るため、小中学校普通教室の空調機器(エアコン)設置への国庫補助を求める」要望書を林芳正文部科学大臣あてに提出しました。

本村議員が同席し、すやま初美参院選挙区候補と、わしの恵子、しもおく奈歩、高橋まさ



こ、みつなか美由紀、いたくら正文、きまた昭子(岡崎市議)、大村よしのり(豊田市議)の各県議候補が参加しました。

県内の公立小中学校のエアコン設置率は35・7%にとどまり、豊田市は昨年開かれた地域懇談会で普通教室への設置率がゼロだったことが分かっています。

2018年度予算で愛知県は68校のエアコンを申請したものの国の補助金が採択されたのは特別支援学校2校のみ。全国では採択率が4%でした。文科省は2019年度予算の概算要求で「本日まで締め切り」の市町村計画のすべてに応えられる額を要求したいと述べていました。

本村議員は、「事故を二度と起こさないための政府、文科省、財務省の姿勢が問われている。真剣に取り組むべきだ」と話しました。

義援金届け 党岐阜県委 本村氏も

党岐阜県委員会は13日、豪雨災害被災者救援募金として中央委員会と県委員会に寄せられた募金を県内5市に届けました。届けたのは被害の大きかった関市、下呂市、飛騨市、高山市、郡上市。

高木光弘県書記長・参院選挙区候補と本村伸子衆院議員が、関市の尾関健治市長、下呂市の服部秀洋市長に手渡しました。関市では小森義直、猿渡直樹両市議、下呂市では宮川茂治、中島新吾両市議が同行しました。

両市長から感謝とともに国に対する要望も出されました。

尾関市長からは、被災した商工業者に対する国の直接支援の要望があり、服部下呂市長からは、浸水した金山地区上流の2つのダムの管理が、それぞれ電力会社と水資源機構となっており、両者の連携に関する要望が出されました。また、JR高山本線が復旧した後も観光客が減り、影響を受けているため、観光振興への支援が述べられました。



関市(上)、下呂市(下)両市長に義援金を渡す

ブロックいっせい宣伝 9月10日(月)を成功させよう